


kikkoman

おいしい記憶をつくりたい。

キッコーマングループが取り組む

地球環境

食と健康

人と社会

キッコーマンの考え方・めざす姿

世界中の人々に“キッコーマンがあつてよかった”と思われる存在であるために

私たちは、創立当初から社会とのつながりを大切にしてきました。さまざまな商品やサービスを100カ国以上のお客様にお届けするようになった今、私たちが果たすべき責任はますます大きくなっていきます。私たちは日々の事業活動をしっかりと誠実にやり、商品やサービスを通じて健康で豊かな食生活の実現に貢献することを基本としながら、キッコーマンらしい活動を通じて地球社会に貢献する活動の一つひとつ積み重ねていきます。

1957・1973

海外進出の本格化

私たちは1957年に米国サンフランシスコに現地販売会社を設立し、1973年には海外初の生産拠点となる米国ウィスコンシンの工場から出荷を開始し、本格的な海外進出を果たしました。それ以来、70年代に欧州、80年代にアジア、近年では南米、インドなど新市場の開拓に取り組んできました。今では世界100カ国以上でキッコーマンしょうゆは愛用され、海外のしょうゆ工場は8拠点にのぼります。キッコーマンしょうゆをグローバル・スタンダードの調味料にすべく、私たちはこれからも新しい挑戦に取り組めます。

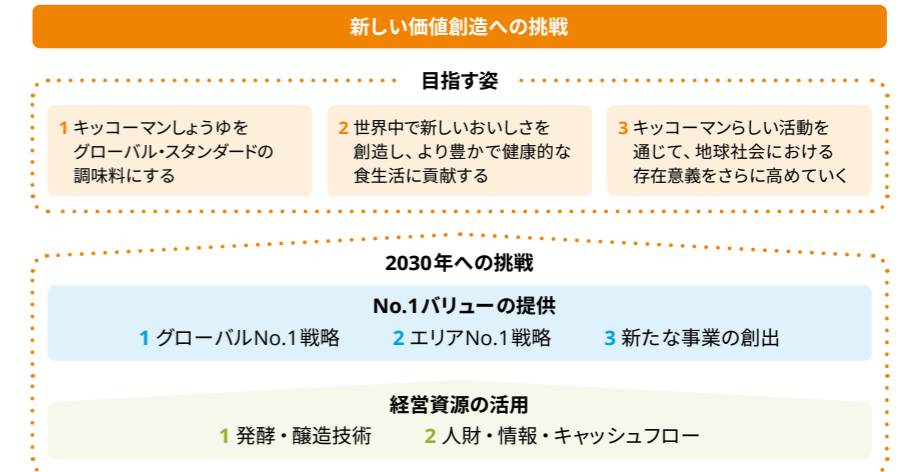


2018

グローバルビジョン2030策定

「新しい価値創造への挑戦」をテーマに、グループ長期ビジョン「グローバルビジョン2030」を策定しました。

グローバルビジョン2030 ~新しい価値創造への挑戦~体系図



1917

野田醤油株式会社の設立

キッコーマングループは、創立当初から一貫して社会とのつながりを大切にしてきました。1917年にキッコーマン株式会社の前身である「野田醤油株式会社」が設立されましたが、当時の合併の訓示に「合併により事業が拡張することは社会との関係が深まり社会に及ぼす影響も広範囲になったということであり、その重責を覚悟しなければならない」という姿勢が記されています。創立から100年以上が経ちましたが、先人の想いは現在のキッコーマングループ経営理念に受け継がれています。



会社合併の訓示

1995

新経営理念制定

私たちキッコーマングループは、

- 1 「消費者本位」を基本理念とする
- 2 食文化の国際交流をすすめる
- 3 地球社会にとって存在意義のある企業をめざす

2007

キッコーマンの約束制定

消費者の皆様にも事業を通して何を提供するのか、将来のあるべき姿をとりまとめたものが、「キッコーマンの約束」です。

キッコーマンの約束

こころをこめたおいしさで、地球を食のよろこびで満たします。

- 伝統のわざと知恵を磨き続け、高品質の商品・サービスを誠実にていねいにお届けします。
- 素材をいかし、栄養バランスに優れた食生活の提案により、こころとからだの健康を応援し、毎日を明るく笑顔で彩ります。
- 世界の食文化との出会いの中で新しいおいしさを創造し、時代や文化に合った豊かな食生活をご提案します。



2022

中期経営計画 2022-2024年度策定

グローバルビジョン2030の実現に向けて、2024年度を最終年度とする中期経営計画を策定しました。中期経営計画では「環境変化に対応し、成長の継続と収益力向上」「事業活動を通じ、社会課題解決に貢献」のふたつの重点課題を定めました。

重要な社会課題3分野

地球環境

キッコーマングループでは、豊かな自然は私たちがおいしさをお届けするための基盤だと考えています。積極的な環境保全活動を通じて、私たちは環境への負荷を減らし、自然を守るための取り組みをすすめています。

社会的な背景



CO₂などの
温室効果ガス
排出量の増加



河川や海洋の汚染、
水不足などの
水資源への影響



限りある資源である
森林資源などの
有効活用



製造段階や
販売段階などで発生する
食品ロスの削減

取り組み事例

1

石油由来の原材料を削減した容器の開発



「キッコーマン豆乳」は、環境に配慮し、石油由来のプラスチックの代わりに植物由来のバイオマスプラスチックを100%使用した、キャップとストローを新たに採用します。さらに、キャップは、従来品よりもプラスチックの使用量を約50%削減します。



2

プラスチック使用量の削減



「いつでも新鮮」シリーズでは容器の主素材をポリエチレン(PE)からポリエチレンテレフタレート(PET(ペット))に変更、剥がしやすいラベルと右回しにするだけで簡単に外せるキャップを採用、従来容器比で10%の軽量化を図ることにより、「使用後の容器を簡単にリサイクルできる」という環境にやさしい特性も付与した「密封ecoボトル」を開発しました。



3

再生可能エネルギーの導入



キッコーマングループでは、再生可能エネルギーを活用するために実質CO₂フリー電気の購入を国内外の拠点ですすめています。また、一部の自社拠点に太陽光パネルを設置し、施設内の電力源として利用しています。

※2021年度末時点



キッコーマンフードテック株式会社

4

資源の活用



キッコーマンソイフーズでは豆乳を製造する際に残る搾りかすの副産物であるおからを乾燥して粉末化させ、家庭向けのおから製品「キッコーマン 豆乳おからパウダー」を発売しています。本商品は、食物繊維や大豆たんぱく質など、大豆の栄養を豊富に含んでいます。きめ細やかでクリーミーな食感が特徴です。



重要な社会課題3分野

食と健康

食に携わる企業として、キッコーマングループは「食と健康」にかかわる重要な責任があると考えています。安全で安心な商品やサービスをお届けするとともに、栄養バランスに優れた食生活の提案などを通じて、こころとからだの健康を応援する取り組みをすすめています。

社会的な背景



心身ともに健やかな
健康寿命の延伸



健康意識の高まりによる
植物性たんぱく質食材の
需要増



過度なストレスや
孤独などによる
メンタルヘルス



多様な
食ニーズ

取り組み事例

1 バランスの取れた健康的でおいしい食の提案



レシピの提案

「ホームクッキング きょうの献立」として無料のレシピアプリを配信しています。数多くのレシピを公開し、365日の献立も提案しています。検索は食材別はもちろん、減塩やたんぱく質など気になる栄養素での検索も可能です。栄養バランスに優れた献立も提案し、健康管理にも役立つこともポイントです。

さまざまな栄養課題への対応

バランスの取れた食生活を通じたこころとからだの健康への貢献をめざして、当社グループはおいしさと健康を両立した商品やサービスの提供に取り組んでいます。キッコーマン食品では、長年かけておいしい減塩しょうゆの開発を行ってきました。また、素材にこだわったトマト飲料や野菜飲料を製造・販売しています。



2 植物性たんぱく質商品の展開



健康意識の高まりとともに、植物性たんぱく質へのニーズも高まっています。しょうゆの主原料である大豆はたんぱく質を豊富に含んだ食材であり、さまざまな食べ方が可能です。当社グループでは豆乳や、大豆を50%配合している大豆麺など植物由来たんぱく質を使った商品の展開拡大をすすめています。



3 食育活動の推進



キッコーマンの社員が小学生向けに実施する出前授業の「しょうゆ塾」に継続して取り組んでいます。「しょうゆ塾」ではしょうゆに関する知識の紹介だけではなく、おいしく食べることについて参加している子どもたちに考えてもらうことを重視しています。



重要な社会課題3分野

人と社会

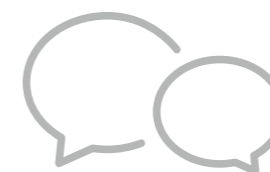


キッコーマングループは、人を大切にする
とともに、社会とのつながりを重視した
経営を行ってきました。私たちは幅広い
ステークホルダーの意見を尊重すると
ともに、「良き企業市民」としての役割を果た
すため、「人と社会」の分野を中心にした
社会貢献活動に取り組んでいます。

社会的な背景



共に持続的な
発展をめざす
地域社会との協働



相互理解を深める
ステークホルダーとの
対話



責任ある事業活動の
基本となる
ビジネスと人権



一人ひとりが十分に
能力を発揮するための
社員の働きやすさ

取り組み事例

1 オランダでの 水質向上プロジェクト

オランダのしょうゆ製造会社であるKFEでは、1997年よりオランダ・フローニンゲン州にあるザウドラデル湖の水質改善プロジェクトに協力しています。風の力を利用して少しずつ湖の水をくみ上げつつ水生生物や微生物などの働きによって徐々に浄化し、浄化された水を湖に戻しています。KFEの支援で導入された湖水くみ上げ用の風車は、「キッコーマン風車」と名付けられています。



2 組織活性化ビジョン 特別研修

組織活性化ビジョンとは、所属長が自らの言葉で、「キッコーマンの約束」や「グループ各社のビジョン」を念頭に、2～3年後の自組織のありたい姿とありたい姿を実現するための方策や人材育成策を記載するものです。2023年3月時点でキッコーマングループの550を超える課所で作成されています。中野CEOは2021年7月～2023年3月の期間で、450名を超える所属長とビジョンについての対話を実施しました。



3 サプライチェーンの 人権への対応

キッコーマングループは、持続可能性に配慮した調達や人権を尊重する活動の一環として、グローバルサプライチェーンにおける倫理的かつ責任あるビジネス慣行の促進を目的に、「Supplier Ethical Data Exchange (Sedex)」に加盟しています。当社グループはSedexのプラットフォームなどを活用し、社内外の人権や環境のモニタリング強化につなげています。



4 障がい者雇用の促進

キッコーマングループは、障がいのある人が障がいのない人と同様の社会生活を送れる社会をめざす「ノーマライゼーション」の理念に基づき、障がい者の雇用と継続勤務が可能な職場環境の整備をすすめています。グループ各社が障がいのある方を雇用し、活躍していただくことを基本方針とし、さらに2019年4月にはグループ全体の社会的貢献・雇用推進のためにキッコーマンクリーンサービスを設立し、2019年7月に特例子会社として認定されました。



1 FISH A WEEK



食と健康



魚を食べて健康に

“おいしく食べていたら、いつのまにか健康的な食生活を実践している”というコンセプトの飲食サービスです。週に一度は魚を食べて欲しいという思いを、名称に込めました。メニューは魚を使用したメイン料理・もち麦ごはん・野菜デリを合わせたセットです。環境に配慮した食材や容器を主に使用しています。海の豊かさを守ろうとするブルーシーフードガイド*の理念に賛同し、パートナーに加盟しました。また、提供する弁当箱やカップなどは主に紙や竹を使用し、プラスチックゴミの削減に取り組んでいます。



*ブルーシーフードガイドとは、地球にやさしいサステナブル（持続可能）なシーフードのリストです。

3 多様な食ニーズへの対応



食と健康



すべての人に“おいしいおしょうゆ”を

キッコーマングループでは、社会の変化とお客様の食ニーズに対応した商品開発に取り組んでいます。例えば、グルテン摂取を制限しているお客様向けに小麦不使用の「グルテンフリーしょうゆ」を、イスラム教徒のお客様向けにアルコール発酵を抑制した独自製法による「ハラールしょうゆ」を開発しました。さらに、国内ではえんどう豆を主原料とし大豆・小麦を使用しない食物アレルギー対応のしょうゆを販売しています。



こんなこともやっています!

キッコーマンの幅広い取り組み

キッコーマングループには、幅広い取り組みがありもつながるものです。今後もさまざまな取り組みをす

ます。これらは事業活動を通じた社会課題解決にすすめていきます。

2 キッコーマン総合病院



人と社会



地域社会への貢献

千葉県野田市で総合病院を経営し、地域のために高品質な医療サービスの提供に取り組んでいます。キッコーマン総合病院の起源は、1862年にしょうゆ醸造家の一家が蔵で働く蔵人たちやその家族のために設けた養生所といわれています。その後、1914年には野田病院として開院し、1973年より「キッコーマン総合病院」となりました。日本で唯一の食品メーカーが設立した総合病院として、「日本一おいしい病院食への挑戦」を掲げています。



4 ルミテスター & ルシパック



人と社会



世界の衛生管理に貢献

キッコーマンが育ててきたバイオ技術を活用して開発されたルミテスター & ルシパックは、たった10秒で表面や液体の衛生状態を検査することができます。専門知識がなくても簡単に使用できますので、食品工場のほか、飲食店や病院、ホテル、ビルメンテナンス、家庭用清掃サービスなど、さまざまな分野で活用されています。また、海外でも販売されており、日本だけではなく世界の衛生環境の向上に貢献しています。





おいしい記憶をつくりたい。

「おいしい記憶」は、食にまつわる体験を通じて積み重ねられます。

楽しさやうれしさといった食卓での時間や雰囲気。

こころもからだもすこやかにしていきます。

地球上のより多くの人があわせな記憶を積み重ね、

ゆたかな人生をおくれるようお手伝いをしていきたい、

という想いをこめています。



キッコーマン株式会社

野田本社

〒278-8601 千葉県野田市野田250

東京本社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-1-1 興和西新橋ビル

<https://www.kikkoman.com/jp>

